

職場の安全衛生と環境改善

■運営委員

- * 通縁由貴江（つうえんゆきえ 日本医療労働組合連合会）
- * 齋藤 友美（さいとうともみ 茨城厚生連労働組合）

■助言者

- * 岡村 やよい（いの健全国センター）

■分科会趣旨／問題提起

医療・介護・福祉の現場ではコロナ禍のもとで、もともと少ない人員配置・ぜい弱な提供体制に感染症対応が加わり業務が増え、さらに風評被害や家族への感染の心配など、労働者の負担は深刻さを増しています。自治労連が昨年4月に調査した保健所の労働実態調査でも、回答があった32保健所のうち18保健所で常勤保健師の残業が月45時間を超え、残業186時間のケースも報告されました。また、日本医労連「看護夜勤実態調査結果」では、新型コロナ感染病棟などで感染リスクを減らすためとして、2交替制導入の増加が明らかになりました。こうしたもとで、メンタルヘルス不全やバーンアウトによる退職の増加、深刻なハラスメント被害が後を絶たない状況も指摘されています。

そうした中で、全世代型社会保障会議は第2次中間報告を出し、フリーランスの拡大と介護分野での生産性向上や人員配置基準の見直しを打ち出しました。「骨太改革2020」でも「フェーズⅡの働き方改革」として、兼業・副業の促進など多様で柔軟な働き方や、より迅速・柔軟に対応できる医療体制の再構築などを掲げており、医療・介護・福祉の提供体制や働く者の雇用・労働環境の悪化も懸念されています。

誰もが心身ともに健康で、働きがいや生きがいの持てる職場づくりをめざし、職場の労働環境改善や長時間労働の解消、メンタルヘルス対策、勤務間インターバルなど安全衛生活動を強化と、コロナ禍での安全衛生活動の取り組みと課題を交流したいと考えています。

■募集する「レポート」

- ①労働安全衛生委員会の活動報告
- ②労働衛生の3管理(作業環境管理・作業管理・健康管理)の改善
- ③ハラスメント防止とメンタルヘルス対策
- ④労災、腰痛、職業病対策
- ⑤長時間労働、不払い残業撲滅、36協定、他

■分科会運営の概要

レポート報告と討論、労安活動・職場環境改善の経験交流など

■参加の呼びかけ

労安活動のレポート報告を持ち寄り、健康で働き続けられる職場をめざして職場環境改善の取り組みを交流しましょう。参加者のレポート報告が分科会充実のカギです。全国からのご参加をお待ちしています。